

楯縫郡



写真提供：株式会社ユーラスエナジーホールディングス

「出雲国風土記に記された郡内人口」と「郡内と想定される現在の地域に住んでいる人口と世帯数」

楯縫郡(等級:下)		現在の地域(上段:世帯、下段:人口)						
4 郷	佐香郷	合計	[平田]小境	[平田]鹿園寺町	[平田]園	[平田]坂浦		
	里3	997	328	135	383	151		
12 里	楯縫郷	合計	[平田]小伊津 塩津(海岸沿い)	[平田]多久	[平田]多久谷	[平田]岡田	[平田]平田(海)	[平田]瀬分(海)
	里3	4,263	488	234	125	69	2,273	1,074
1 余部	玖潭郷	合計	[平田]東郷(一部)	[平田]野石谷(一部)	[平田]久多美	[平田]東福		
	里3	642	77	57	40	468		
1 神戸	沼田郷	合計	[平田]本庄	[平田]西郷	[平田]万田	[平田]小津	[平田]釜浦	
	里3	587	70	138	225	120	34	
余戸里	合計	[平田]十六島						
	里1	161	161					
神戸里	合計	[平田]上岡田						
	里1	79	79					
400	462	462						
400	251	251						
総計								
楯縫郡(等級:下)		6,729						
		5,600	20,934					

楯縫と名付ける訳は、所造天下大神(アメノシタツクラシオオカミ)の鎮座する宮殿(杵築の宮)造営を指示する天神の側の勅を起源とする。すなわち、千尋(ちひろ)もある長い樫(たくなわ)で結び固めた広大な宮殿を造り、百八十縫(ももやそぬい)の白樫を造ることを命じている。この勅を受け天から下っていらしたのが天御鳥命(アメノミトリノミコト)で、ここで大神の御殿の神器としての楯を造りはじめなされたため「楯縫」という。

ここで言う「楯」とは戦いにおける防具としての楯ではなく、祭祀に用いるもので、板に裝飾が施されたものが平城京跡の遺跡から出土している。板ではない場合、この時代まだ木綿はなかったため、麻製か絹製であろうか。

大社の「吉兆さん」の幟旗や、神社の祭壇の脇に飾られている布の衝立のようなイメージであろうか。

また、「縫う」という言葉も「造る」と同意語であり、針と糸で縫うのとは違っている。

おんほら解説

※所造天下大神とは、大国主命のこと、風土記及び日本書紀の記述にならいました。

※千尋や百八十縫など沢山の長さや量を表す標記は曖昧ですが風情を感じます。八百万(やおよろず)の神などの表現もよく耳にします。

※樫(こ)とは、樫(こうぞ)の皮で作った強い縄のこと。樫(こ)は後世の和紙の原料である樫の古名です。

佐香神社

佐香神社は鳥根県出雲市小境町に鎮座する神社である。別名、松尾神社。酒造の神として酒造業者からの信仰を集めている。

『出雲国風土記』

楯縫郡の条の佐香郷に、川の中州で八十柱もの神が集まって御厨を建てて酒を造り、180日もの間宴会をしたあと解散したという説話が記載されている。配神の百八十神はこれを意識したものである。

『出雲国風土記』楯縫郡の条の在神祇官社「佐加社」、延喜式神名帳の出雲国楯縫郡の「佐香神社」に比定される。

享保2年(1717年)の地誌『雲陽誌』の小境村の項に「松尾明神」とあり、それによれば明応9年(1500年)の棟札があることされ、室町時代には前述の松尾大社の祭神が勧請されたと考えられる。

江戸時代に入っても松江藩主を初め近隣の出雲杜氏たちの崇敬を集めていた。明治に入り社名を「佐香神社」に復したが、通称の「松尾神社」も併用されて現在に至る。

例大祭は10月13日に行われる。濁酒祭(どぶろくまつり)とも呼ばれ、室町時代から続いているとされる。10月1日の未明に宮司自ら杜氏となつ



て神酒の醸造を行い、祭礼の前日に国税庁の係員の検査を受ける。当日には酒造業者たちが集まり、安全を祈願する奉納祭が執り行われる。ちなみに当社では財務省より、祭礼のために毎年1石以下までのどぶろくの醸造の許可を得ている。



ご朱印帳



縁結びあめ

玖潭神社

『延喜式神名帳』「出雲国楯縫郡玖潭神社」とある式内社で、昔玖潭の郷の総氏神であったと伝えられる。

『出雲国風土記』の玖潭郷の条に「郡家の真西五里二百歩なり。所造天下大神命、天の御飯田の御倉造り給はんところを、もどめ巡行り給いき。

爾時波夜佐雨久多美乃山と詔り給いき。故、忽美という。神亀3年(726年)字を玖潭と改む。」とある。

「所造天下大神」とは、当神社の祭神大穴牟遲命(オオアナムチノミコト)のことである。

本社はもと現在の社地より2000メートル余り、北方の城山の要害平という山頂にあったが、明應5年(1496年)秋、回祿の災にかかり社殿ごとごとく焼失し、その際御神体は西の方にある巨巖上に鎮座せられていたが、これを貴女社に奉還し、更に久多美社(五社明神)をも合祀して、玖潭神社として新たに社殿を築き現在地に遷した。

【出雲大社との縁】

主祭神は、大国主命であって祭神を同じくする出雲大社との縁故浅からぬため、寛文8年(1668年)3月には前例にならって、出雲大社より古材木を賜っており、延享元年(1744年)5月と、文化6年(1809年)10月には、



素鷲社の御内殿を(現本社の御内殿に使用)、明治14年(1881年)には御神輿(現天満宮の内殿)と御客座御神輿(現金刀比羅神社の内殿)とを下渡されている。

あんぼ柿(干し柿)

主に平田地域で栽培される「西条柿」を、半生タイプの干し柿にします。もどが渋柿とは思えない、柿本来の甘さが凝縮されたゼリー状の食感が特徴です。まさに天然のスウィーツである干し柿は、「スイートパーシモン」の名で知られています。



楯縫郡の神社

- ※久多美(くたみ) 社
 - ※多久(たく) 社
 - ※佐加(さか) 社
 - ※乃利斯(のりし) 社
 - ※御津(みつ) 社
 - ※水(みず) 社
 - ※宇美(うみ) 社
 - ※許豆(こづ) 社
 - ※同社
- (以上九所はいずれも神祇官社(じんぎかんしゃ)。)

- ※許豆乃社
- ※又許豆社
- ※又許豆社
- ※久多美社
- ※同久多美社
- ※高守(たかもり) 社
- ※又高守社
- ※紫菜島(のりしま) 社
- ※鞆前(ともさき) 社
- ※宿努(すくぬ) 社
- ※埴田(さきた) 社
- ※山口(やまぐち) 社
- ※葦原(あしはら) 社
- ※又葦原社
- ※又葦原社
- ※岨之(みねの) 社
- ※阿牟知(あむち) 社
- ※葦原社
- ※田々(ただ) 社

(以上十九所はいずれも不在神祇官社(ふざいじんぎかんしゃ)。)

『解説出雲国風土記』本文・現代語訳より

縁結び神社(宇美神社内)

ご祭神は、伊弉諾尊(イザナギノミコト)と伊弉册尊(イザナミノミコト)。木綿街道沿いの宇美神社(うみじんじや)の境内に合祀された神社で、「縁結」の名がつく神社は「出雲」でもここだけとのこと。良質の「平田木綿」を集め栄えた地で、あなたの願いを紡いだ糸が、しっかりとご縁に結ばれますように。ハート型の絵馬に託してみても。

佐香神社

松尾神社とも呼ばれ、酒の神「松尾」様の名をいたたく神社は、全国で京都とこちらの2社のみ。主祭神は、酒造りにも葉の神でもある久斯乃神(クスノカミ)。日本酒発祥にも関る神社は、国税庁から、一石の「どぶろく」醸造を特別に許可されており、酒造関係者が集う例祭で振舞われる。全国八百万の神々をもてなすとされる「出雲」の酒。適量であれば、「酒は、百葉の長」とも、美白効果も言われているが、一番は、集う皆を「笑顔」にする効果では。

愛宕山の消防神社

火災鎮護の神「愛宕権現(アタゴゴンゲン)」(秋葉権現)を祭ったその名も「消防神社」。平田城址に整備された「愛宕山公園」内にあり、毛利・尼子の激しい戦火を経て建てられた防火守護神の堂宇を、旧平田町消防組が、町などの協力を得て再建したもの(昭和11年7月6日遷座祭)。毎年消防団が祭主となって、市内の無火事と市民の安全を祈願している。平田の街が一望できる地に、強い思いで再建された、そんな神社でもある。

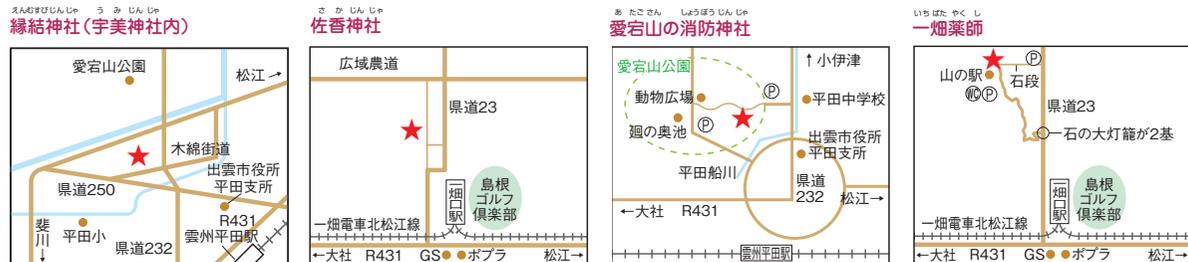
一畑薬師

目のお薬師さんとして知られる一畑薬師。二歳児詣りなど、子どもたちの無事成長のお願いどころと石段から、お参りに自信のある方は、ふもとの山門入り口の石段から、お参りされることをお勧めする。薬師本堂から見下ろす宍道湖と北山の見事な景色にじっと目を凝らすだけで目がよくなるそう。

◆ 1300 年前にあった神社と現在状況

出雲国風土記	現在の神社	所在地
久多美社	玖潭神社 久多美神社	久多見町 東福真町
多久社	多久神社	多久谷町
佐加社	佐香神社	小境町
乃利斯社	能呂志神社	野石谷町
御津社	御津神社	三津町
水社	水神社	本庄町
宇美社	宇美神社	平田町
許豆社	許豆神社	小津町
	許豆神社	小津町
	許豆神社	十六島町
高守社	山口神社に合祀	鹿園寺町
紫菜島社	紫菜嶋神社	十六島町(許豆神社境内)
鞆前社	鞆前神社	坂浦町
宿努社	宿努神社	多久谷町
埴田社	埴田神社	園町
山口社	山口神社	鹿園寺町
葦原社	葦原神社	西郷町
岨之社	岨神社	万田町
阿牟知社	能呂志神社に合祀	野石谷町
田々社	田々神社	美保町

大好き☆出雲！倶楽部で作成した「お願いどころマップ」



入海と宍道湖

風土記の時代、入海と呼ばれた宍道湖は現在よりも広大な湖でした。今の姿になったのは江戸時代になってからです。松江藩によって斐伊川の流路が変更され、人為的に埋め立てられました。現在の平田町、灘分町、斐川町の広大な水田地帯はその時に出来たものです。



一畑薬師



宇美神社

許豆五社探訪（小津町・十六島町）

うつぶるい

1 相代許豆神社（あいしろこづじんじや）

許豆神社（小津）もと村社。小津町477番地。主祭神は、武甕槌神。例祭は、10月19日。社伝によると、享保15年（1730年）10月16日現在地に創立というが、『出雲国風土記』に許豆社が五社載っており、そのうちの二社と考えられる。『雲陽誌』によると、江戸時代には、鹿島明神と呼ばれていたらしいが、明治4年村社に列格し、社名を旧に復したものである。



相代川の上流に沿って山道を登ると、相代の許豆神社があります。許豆神社の位置関係を考えるとちょっとスピリチュアルな感じがします。

3 北の宮

許豆神社（小津）もと村社。小津町212番地。通称北の宮。主祭神は、須佐之男命。例祭は、10月19日。『出雲国風土記』楠縫郡神社記に載る許豆神社五社のうち、官社許豆神社。「延喜式」神社帳に許豆神社とある。『雲陽誌』によれば、江戸時代には切明神と呼ばれたが、明治4年旧社名に復した。



2 南の宮

許豆神社（小津）もと村社。小津町南92番地。通称南の宮。主祭神は、志那津毘古命、志那津毘売命。二神は、伊弉諾命、伊弉册命の子神で夫婦神。ともに風の神。明治24年の由緒書出によると、国引きのとき八束水臣津野命の大業を授けられたので、去豆の折絶（こづのおりたえ）の地に祀ったという。『出雲国風土記』に許豆五社が載っているが、当社はこれらの官社許豆社に比定され、「延喜式」神名張の許豆社とされる。『雲陽誌』によれば、江戸時代には、大宮神社と呼ばれ、慶長5年（1600年）修造の棟札が残っているという。明治5年旧社名に復した。

4 灘の宮

許豆神社（小津）もと無格社。小津町259番地。通称灘の宮。主祭神は、事代主命。例祭は、4月1日。『出雲国風土記』楠縫郡に載る許豆社五社のうち、国社の許豆神社に比定される。

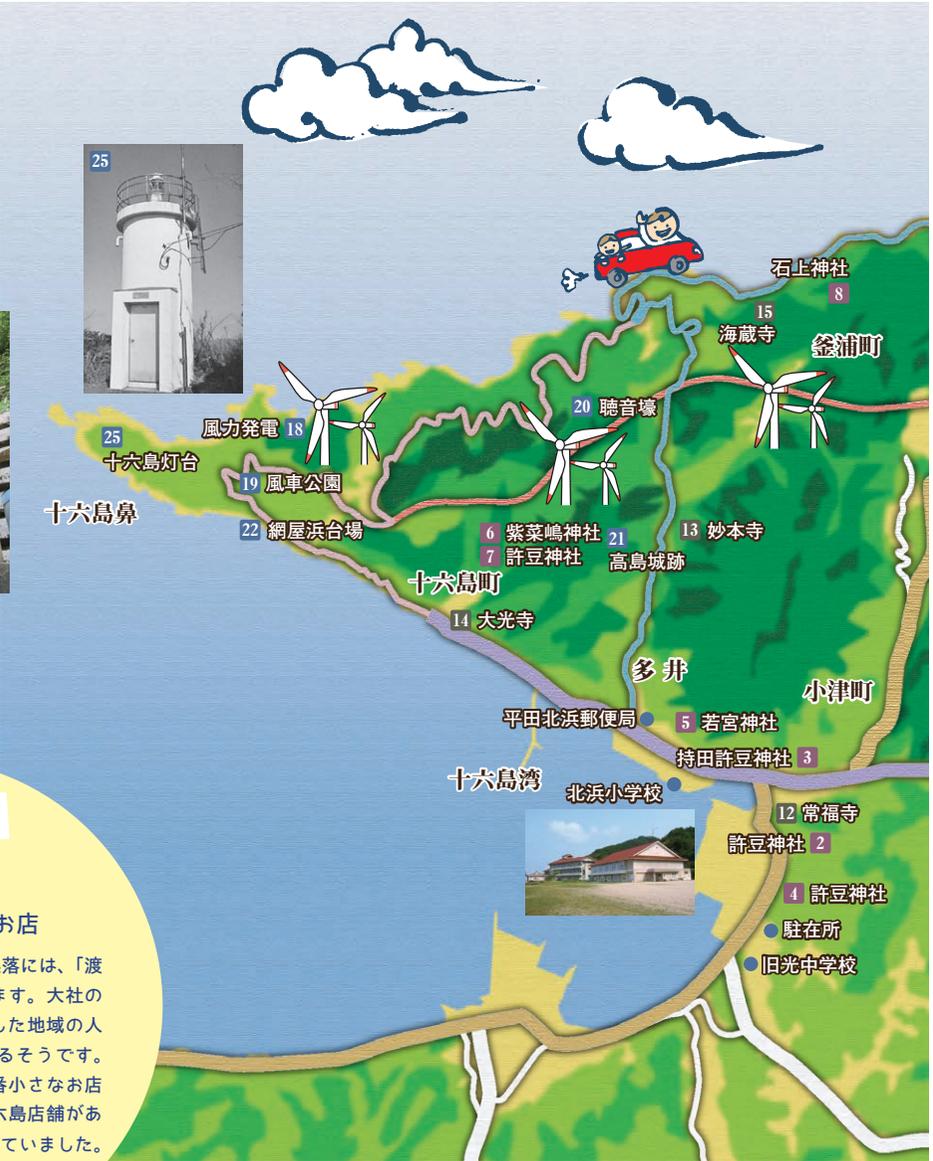


200段以上の階段をのぼりいざ十六島の許豆神社へ！運動不足の体には堪えました。



7 十六島許豆神社

許豆神社（十六島）もと村社。十六島町826番地。主祭神は、宇迦御魂命、猿田彦命、天宇受売命。例祭は、旧2月初午日。境内社と祭神は、紫菜嶋神社（事代主命）。例祭は、旧9月16日。通称十六島稲荷神社。『出雲国風土記』楠縫郡には許豆社が官舎二社、国社三社の五社が記載されているが、そのうちの国社一社が十六島許豆神社に比例されている。江戸時代の文政7年（1824年）、官司竹下清賢が伏見稲荷から分霊を勧請し、以来、稲荷大明神と呼ばれたが、明治4年旧社名許豆神社に戻った。境内の紫菜嶋神社も『出雲国風土記』所載の国社であるが、いつのころからか津上神社と呼ぶようになった。明治45年紫菜嶋神社に復して、許豆神社の境内社とした。十六島海苔の神様として地区民に崇敬されている。



6 紫菜嶋神社
この神社の最大の特徴は、この地区の代名詞でもある「十六島海苔」その海苔の神様として地元の人々に親しまれている神社があるということです。

こぼれ話

十六島町に多い「渡部さん」とレトロなお店

十六島の許豆神社に向かう集落には、「渡部さん」が多いことに気がきます。大社の鶴鷺地区も同じですが、こうした地域の人たちは、屋号で呼び合っているそうです。また、道中には出雲市内で一番小さなお店ではないかと思われるJA十六島店舗があり、レトロな雰囲気を醸し出していました。

【出雲河下港発電所の概要】

- 所在地／出雲市小津町 1319-1
- 最大出力／1,950kWh
- 年間発電量計画／2,000,000kWh
- 使用面積／41,000㎡
- パネル枚数／8,400枚
- 一般家庭世帯数 約 600 世帯数分



出雲河下港発電所から風車

地図提供：北浜コミュニティセンター

北浜コミュニティセンターのある北浜地区は、島根半島から西に突出した十六島半島部と、この半島から東の摺木山にいたる山稜を南の界とし、北は日本海、南は十六島湾に区切られた長い海岸線を持つている地区です。また、十六島湾で取れる岩海苔は、『出雲国風土記』にも記載されるほど歴史があり、出雲の特産品として有名です。平成18年には、地球温暖化防止、環境保護の観点から日本最大級の風力発電施設の工事が始まり、平成21年から本格稼働しました。北浜地区には、20基が林立しこの地区の新たな景観が形成されました。コミュニティセンターでは、北浜地区の目標として「ずっと活力のある北浜の郷」「ずっと安心して暮らせる北浜の郷」「ずっと心豊かな北浜の郷」を掲げ、歴史を活かした取組や新たな景観「風力発電」を活かした水仙の郷づくりなど特色のある活動が行われています。

ユーラス新出雲ウインドファームと十六島の風車公園

平成21年4月、出雲市の北浜地区、西田地区、久多美地区、佐香地区にまたがる島根半島湖北山地区帯に、日本最大規模の集合型風力発電施設「ユーラス新出雲ウインドファーム」が営業運転を開始しました。

この自然の恵み100%の「風エネルギー」を利用したクリーンな電気エネルギーを作り出しています。また、発電所の近くには、風力発電所を身近に感じてもらうために、出雲市が十六島風車公園を併設しました。



【風力発電の概要】
 ●設備容量／総出力 78,000kW (3,000kW の風力発電機 x26 基)
 →一般家庭の約 40,000 世帯分の消費電力量に相当。
 出雲市全消費量の 8 割をまかなえる。
 ●風力発電機／Vestas 社製 (デンマーク)
 1 基あたりの定格出力が 3,000kW で国内最大規模の風力発電機。
 ●風車の大きさ／タワーの高さが約 75 m、ブレード (羽根) の長さ約 44 m、最高到達点が約 120 mになる。

取材レポート

風土記記載の5つの許豆神社のうち、小津町にあるいわゆる北の宮、南の宮及び十六島の許豆神社はお詣りしましたが、残る二つの宮はおそらく地元の方でないと所在地は詳しくわからないだろうと、この地に嫁ぎ40年のTさんに案内を乞いました。まず向かったのは通称「灘の宮」。名前から、おそらく海辺に近い所にあるだろうとは想像できました。案内されたのは、現在の主要地方道斐川一畑大社線から少し斜面を上がった小さな道沿いにありました。この小さな道が元々の海岸沿いの道だったそうです。7-8段の石段を登ったところに小さな祠がありました。「昔は毎日ご飯を炊いて供えたものだけど、今は漁に出る機会も無くなって、めったに参らなくなつたわ。」と語るTさんのご主人は遠洋漁業の漁師さんだったとか・・・毎日毎日、夫の無事の帰還を祈りながらお参りし、子育てしておられた日々が目に見えかびます。主祭神は事代主命。

そして、次に向かったのは相代の許豆神社。「ここから10分位なものです。」と言われたけれど、相代川に沿って人家もまばらな山道をエンジンを唸らせながら登っていきます。杉木立の中の一木道は舗装がされていてもガードレールのない狭い道。ハンドルを持つ手が硬くなってしまいました。その道の行き止まり、屋なお薄暗い木立の中に新しいコンクリートの鳥居が見えた時は安堵のため息が出ました。稲佐の浜で大国主命に国譲りを迫ったタケミカズチノカミが祀られています。この里山の20軒ほどで守られているそうです。

下り坂は思いのほか安心な山道に感じられ、車を下り眺めれば、日当たりのよい南斜面に面した集落が桃源郷のように感じられました。

「相代茶」という美味しいお茶の産地でもあるとか。

「ホニ良いとこですがあー気持ち晴れ晴れしますわ!」というTさん。生れた地区ではないけれど、嫁して40年、十六島海苔摘み作業に出かけ、銭太鼓の練習をし、仲間とジゲ起こしの寸劇をする。

すっかりその風土に溶け込み、根を張り、地域や人を愛し暮らしていく。自然の営みと人間の営みが上手に共存している美しい出雲の風土をここに見つけることが出来ました。

楯縫郡の神名榎山

楯縫郡の山野の項に記載されている神名榎山は標高327メートル、出雲市多久町の大船山のこと。

阿遅須積高日子命（アジスキタカヒコノミコト）の後の天御梶日女命（アメノミカジヒメノミコト）が多宮村までいらつしやつて多伎都比古命（タキツヒコノミコト）をお産みになったことに由来する。

山頂近くには通称「烏帽子岩」と呼ばれる岩があるが、その岩こそ多伎都比古命（タキツヒコノミコト）の御魂の宿る石神にあたるといわれている。「烏帽子岩」の下方に「長滑の滝」と呼ばれる滝があり、日照りにも枯れない滝である。

この山稜付近では、古墳時代前期から後期の土器が採取され「風土記」の時代より400年近い前から祭祀の場であったことが判明している。

『出雲国風土記』に記載される4つのカンナビ野・山はこの楯縫郡の神名榎山の他に、意宇郡の神名榎野（現松江市山代町の茶白山）、秋鹿郡の神名火山（現松江市鹿島町の朝日山）、そして出雲郡の神名火山（現出雲市斐川町の仏経山）である。

カンナビ野・山は、神霊の宿る神聖な山という意味だが、その視点からいうと他にも信仰の対象とされている山が多くある中で、カンナビと冠されている山は『出雲国風土記』では、この4つだけである。

この4つのカンナビの位置関係を見ると、ほどよく距離を隔てて宍道湖を囲むように存在している。

4つのカンナビは出雲世界を守ることを意図して設置しているとも考えられる。



出雲国風土記掲載事項チェック

	風土記表記	現在名称	所在地
楯縫郡	天日栖宮	天つ神が住む宮	
	千尋	長さの単位(とても長いという意味)	
	栲継	楮の皮で作った縄	
	桁梁	建造物において、柱を結ぶ水平方向の部材	
	結び下げて	長い栲継の橋を美しく垂らすこと	
	天御量	高天原の尺度	
	天御鳥命	他に見えない神(アメノトリの子、アメノヒナトリと同一視する節もある)	
	楯縫郡家所在地	多久谷町灘古殿が推定地(遺跡は発見されていない)	
	八百八十神	非常に多くの神	
	御厨	神々の飲食物(神饌)を調理する場	
北海の浜の紫菜磯	美保町唯浦漁港付近の海岸		
天御飯田	天つ神の食料となる米を作る田		
はやさめ	にわか雨		
宇乃治比古命	他には見えない神。海の神か。(大原郡海潮郷にも見える)		
乾飯	米を蒸して乾かしたもの。水をかけて柔らかくして食べる。		
出雲神戸	神戸は政府に納めるべき税を特定の神の社殿造営・調度制作に充てたり監督官庁の神祇官に納めるように指定された戸		
寺社	新造院	西郷院	西郷町
	神名榎山	大船山(H327m)	多久谷町
山野	阿豆麻夜山	桧ヶ山(H333m)	多久谷町、三津町、上岡田町の境
	見椋山	摺木山(H415n)	本庄町、塩津町の境
河川・池	佐香川	鹿園寺川	
	多久川	多久川	
	都宇川	東郷川・久多見川	上岡田町(東郷川)と久多見町(久多見川)
	宇加川	宇賀川	本庄町から流れ口宇賀町で合流、平田船川に注ぐ。出雲郡との境
	麻奈加比池	真名神池	鹿園寺町
	大東池	野田場池	多久町の北方
	赤市池	赤市池(現明地池)	野石谷町
	沼田池	奈良尾池	西郷町の北
	長田池	池田池	久多美町
	自毛崎	坂浦町の牛の首	
海岸地形	佐香浜	坂浦町坂浦漁港付近	
	己自都浜	小伊津町の海岸	
	御津島	三津町沖の小さい岩島	
	御津浜	三津町の海岸	
	能呂志島	美保町唯浦漁港沖に浮かぶ天狗島	
	能呂志浜	美保町唯浦漁港付近の海岸	
	鎌間浜	釜浦町釜浦漁港付近の海岸	
	許豆崎	十六島町の西端	
	許豆島	小津町十六島鼻突端の経島	
	許豆浜	小津町の海岸	
通道	伊農川	伊野川	秋鹿郡の堺
	宇加川	宇賀川	本庄町から流れ口宇賀町で合流、平田船川に注ぐ。出雲郡との境
郡司	物部臣		
	出雲臣		
	高善史		